



コウホネ（七沢）（撮影 阿部会員）

令和3年 9月号 Vol. 209

（2021年）

発行：令和3年9月20日

あつぎ観光ボランティアガイド協会

ホームページ <http://atugikanvola.sakura.ne.jp>

メールアドレス [atugikanvola@yahoo.co.jp](mailto:atugikanvola@yahoo.co.jp)

発行責任者 会長 森島 誠 編集担当者 阿部 啓冊

## 《コロナ禍に思う》

会長 森島 誠

思いもかけずに新型コロナウイルス感染症が流行し、終息の兆しが見えない状況が続いていて、当会の活動も中止状態になっています。

活動が出来なくなった最初の出来事は当会が担当になっていた2020年2月27日実施予定のかながわガイド協議会訪問ガイド（厚木の景勝 飯山白山・順礼峠ハイキング）で、



2021年度総会で挨拶する会長

実施3日前に流行防止のため中止せざるを得ませんでした。

それ以来、感染予防のためお客様を案内する企画ガイドは新型コロナ流行が終息するまで行わないことになりました。

活動に大きな影響を及ぼした新型コロナ流行防止の対策では、昨年（2020年）4月3日に緊急事態宣言（第1回）が発出され5月26日の解除まで続きました。その後も流行はおさまらず、今年（2021年）1月8日に第2回の緊急事態宣言が発せられ期限の延長を繰り返しながら3月21日に解除。その後4月28日に神奈川県では横浜・川崎・厚木など流行が多発し続けているため新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置法が公示され、その状態が続き8月2日には緊急事態宣言（第3回）に移行し、9月12日までの予定ながら延長になりそうで先の見えない状況が続いています。（編集者注：9月9日に緊急事態宣言が9月30日まで延長されることが決定しました。）

昨年の活動を振り返ってみると、活動の最大テーマであった厚木市との協働事業として「道標のマップ化」も計画はしたものの実施する段階で中止となり、当会でも重要な位置づけの定例会も昨年度から今年度の九月までの間、合計10回も中止になってしまいました。

このようなかつてない事態に我々は対処すべき方法がなく手をこまねいています。

いま何をすべきか 個人個人でコロナ流行防止対策をとり少しでも流行防止に寄与すべき行動を心がけることが大切と考えます。

当会の活動は停止していますが、来るべき通常の活動に備えて日頃から厚木に関する知識を高める動きを自主的に行うことが必要です。

特に、新しい会員の皆様には、ガイドが出来ないとまどいがあるかとも思いますが、ガイドに関する資料を手にしてみることをお勧めします。

当会の資料は、厚木市東丹沢七沢観光案内所の一画に保管してありますが、緊急事態宣言では保管場所閉鎖になっています。幸いにも古い会員が保有している資料も多数ありますので希望を伝えていただくことによって提供が可能です。

ハイキングのガイドに備えて体力の維持も大切です、出来る限り歩く機会を作り体力の維持向上に努めていただきたいと思います。

当会での現時点での最大の懸案事項は、令和4年1月20日に実施予定のかながわガイド協議会訪問ガイドの担当です。県内ボランティア団体から参加されますので成功に向けてご協力をお願いします。

あくまでも新型コロナが終息してからの活動になりますが、依頼ガイドの打診も来ています。当会の企画ガイドの再開を望まれている声も届いています。

新型コロナ流行もコロナワクチン接種の効果で終息も近い将来には必ず来ます。その時には案内するコースの下見を繰り返して準備しお客様を迎えたいと思います。今こそ会を挙げての結束が必要です。ボランティア活動を始めた初心を忘れずにコロナ終息のその時を信じて活動に備える事を切に願っています。



## 会員投稿

### 《相模大堰 水の中の空》

前澤 宣子

去年の3月31日から相模大堰の管理橋が一般に開放されました。手摺りにはシンプルなイルミネーションもつけられ、直ぐそこにあるのに行けなかった対岸へ気軽な散策に出かけられるようになりました。右岸の厚木市岡田と左岸の海老名市社家が橋1本で結ばれたのです。

1998年（平成10年）に完成した相模大堰は水道水の為の取水堰で、管理をするのは神奈川県内広域水道企業団の社家取水管理事務所です。ここで取水された水は企業団の構成団体である神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市の運営する水道事業に供給されています。

相模川をまたぐ約500mの管理橋の上を歩くと、川上側の高い水面と川下側の低い水面との差が2、3mある事がわかります。堰は取水するための水位を保っているのです。

川上側の水面は穏やかで、時には美しく空を映し出します。「ここにも空が…」と手摺りから川の中を覗き込んで水中に見入る事があります。



管理橋から川上側の水の中の空

（向こうは東名高速道路の橋脚 取水口は手前右奥）



管理橋から川下側の人工の中洲

（8月中旬の豪雨で周囲が削り取られる前の姿）

相模大堰の下流約400mのところに青い相模川水管橋が架かっています。この水管橋は、酒匂川の飯泉取水堰で取水し伊勢原浄水場で浄水した水を横須賀市へ送る為の送水管

を1本乗せている橋です。この相模川水管橋と相模大堰の間には人工の中州があり、そこは上流側に溜まる土砂の移動場所です。6、7月にはこの中州にコアジサシが飛来して集団営巣をし、小さなカモメと言った姿が川の上を飛び回るようになります。巣は裸地の砂利の窪みに卵を産むだけのものなので、子育ての危機回避には集団営巣は必要な手段なのでしょう。コアジサシのシャープな飛翔と姿には惹きつけられます。空中で一瞬ホバリングしたかと思うと、真逆さまに頭から水面に突っ込んでいきます。見ている限り魚を捉える確率は小さく空振りばかりなのに、それでも細く長い翼は疲れを知らないかのように川の上を搜索し続けています。管理橋から見ていると、双眼鏡の視野の中をこちらに向かって真直ぐに飛んで来る時がありました。私の真上を管理橋を越える為に、それも嘴に小魚を加えて飛行して行くのです。中州に戻るとコアジサシの親の姿はいつも砂利の広がりの中に沈むように消えてしまいます。砂利と区別がつかなくなって、ずっと消え入る瞬間も面白い不思議さです。

相模大堰管理橋を海老名市側へ渡れば、そこに神奈川県内広域水道企業団の社家取水管理事務所があります。この企業団は、1969年（昭和44年）水道用水の広域的で効率的な有効利用を図る目的で、神奈川県、横浜市、川崎市、横須賀市の4団体が共同で設立したものです。

相模大堰で取水した水は主に企業団の4つの浄水場へ送水されています。相模川水系の綾瀬浄水場と酒匂川水系の3つの浄水場、相模原浄水場、西長沢浄水場、伊勢原浄水場です。相模大堰の取水口は左岸の海老名市側にあります。管理橋はその橋板の舗装の下に、酒匂川水系の3つの浄水場へ送るための導水管を抱え込んでいます。中州の向こうの相模川水管橋には浄水された綺麗な水道水が東の横須賀市へと流れ、管理橋の下には浄水される前の原水が西へと流れているのです。

この相模川を西へ渡った原水は、伊勢原浄水場直下の導水トンネルを経由して、厚木市上依知と相模原市当麻を結ぶ相模川水路橋で再び相模川を東へ渡り、相模原市にある相模原浄水場と川崎市にある西長沢浄水場へ導水されていきます。

神奈川県の中央から東部は、企業団の施設の他に、県営水道、横浜市営水道、川崎市営水道、横須賀市営水道の各施設が入り乱れて助け合っています。ちなみに相模大堰で取水された水の一部は、社家取水管理事務所と同じ敷地内にある横須賀市上下水道局の社家導水ポンプによって海老名市にある横須賀市営の有馬浄水場へ送られて浄水されています。そこで浄水された水は、相模川水管橋を渡って来た水道水と一緒に横須賀市へ送られているのです。

県内の各水道事業のための施設の建設目的や歴史を知ると、地域の発展と共に複雑になっていった水の供給網が理解できます。

さて毎日、私達が使用している水は一体どこから来ているのでしょうか。最後に、厚木市の各地区の水がどこの浄水場から送られて来るのか、次の表に示しました。厚木市は全域が県営水道の給水区域で、私達の水は5箇所の浄水場からそれぞれやって来ています。やはり複雑ですね。

厚木市の水道水はどこから？

水 源	浄 水 場	管 理	給 水 地 域
相模湖	谷ヶ原浄水場	神奈川県	依知地区(北部の一部)
酒匂川 相模川	相模原浄水場	企業団	荻野地区 小鮎地区(北部) 睦合地区(北部) 依知地区(一部を除く)

酒匂川 相模川	伊勢原浄水場	企業団	玉川地区 小鮎地区(南部) 森の里地区 南毛利地区(東南部を除く) 緑ヶ丘地区 睦合地区(南部) 厚木地区(西北部の一部)
相模川	綾瀬浄水場	企業団	厚木地区(北部) 西北部の一部を除く)
相模川	寒川浄水場	神奈川県	厚木地区(南部) 南毛利地区(東南部) 相川地区

\*酒匂川水系の取水地点は小田原市にある企業団の飯泉取水堰です。

\*相模川水系の取水地点は、寒川浄水場以外は企業団の相模大堰です。

\*寒川浄水場の取水地点は寒川町にある県の寒川取水堰です。

### 最近の活動

日時	場所	内容	参加者
緊急事態宣言により9月11日に予定した定例会・勉強会は中止となりました			

### 令和3年9月・10月 行事予定

	日時	行事	会場・場所	内容	申込先
9月	以下の行事は延期となりました。				
	9月16日→2月末以降:「神奈川宿に伝わる浦島伝説」(かながわガイド協議会) 9月30日→時期未定:「鎌倉幕府執権」北条義時の史跡を辿る(かながわガイド協議会)				
	25日(土) 9:00~16:00	観光客入込み調査	市内4箇所 (三川合流を除く)	観光客動向調査	サークルスクエア
10月	9日(土) 9:30~12:45	定例会・勉強会	アミューあつぎ	—————	サークルスクエア
	13日(水) 9:00~12:30	かながわガイド協議会 訪問ガイド	横浜市保土ヶ谷区	浮世絵で巡る東 海道保土ヶ谷宿	サークルスクエア (3名)

お願い 行事予定が決まりましたら、阿部あてメールでご連絡下さい。

提出期限は定例会の1週間前(編集会議と印刷のため)

### 編集後記

巻頭の写真は七沢で育てられているコウホネです。学名は *Nuphar japonica* (日本のスイレンの意) と名づけられており、日本固有の水生植物といわれています。全国に広く分布し漢方薬(川骨)として利用されていますが、今では野生の花を見かけることが少なくなり、神奈川県では絶滅危惧Ⅰ類に指定されています。

編集委員 阿部 啓冊 澤田 正弘 前澤 宣子